

# EU技術規制当局の "現実逃避" の瞬間

4月10日、欧州委員会のマルグレーテ・ヴェスタエアー副委員長（EVP）は、[アメリカン・エンタープライズ研究所（AEI）主催](#)のイベントで、AIガバナンスと世界的な技術進歩について講演した。

EUの独占禁止法違反訴訟およびデジタル市場法（DMA）のダウストリームのサイバーセキュリティおよびコンテンツモデレーション政策への影響について論じる中で、ヴェスタエアー副委員長のコメントは、DMAによって義務付けられたセキュリティおよびプライバシーの脆弱性に関する懸念は "気をそらせるおとり" であると言って、EU規制当局がこれらの影響力のある法律を具体化する一方で、ダウストリームおよび潜在的な長期的影響に対して十分な注意が払っていないことが露呈した。DMA流の枠組みに付随して起こる深刻なプライバシーとセキュリティのリスクを軽んじるこのような態度は、日本、ブラジル、韓国のような他国の政府に、各国独自のDMAバージョンで前進する前に、深刻な不安を抱かせるはずだ。

2022年に可決された [DMA](#)は、大手オンライン・プラットフォーム6社を「ゲートキーパー」企業として認定し、デジタル市場における特定の行為要件を課している。DMAの重要な規定として、ゲートキーパー以外のアプリストアからのアプリのインストールする際に、ゲートキーパーのモバイルオペレーティングシステムを使ってサポートをし、ゲートキーパー以外のサービスについても同等の相互運用性を義務付けている。

モバイル機器は引き続きサイバー攻撃の格好の標的となっている。[アナリスト](#)らは、DMAは競争促進を目的とする一方で、サードパーティ製アプリのインストールを容易にすることで不用意にセキュリティを低下させ、結果としてマルウェアやセキュリティ侵害のリスクを高めることになるとの懸念を示している。私達はまた、特定のDMA条項が厳格に実施された場合、プロアクティブなセキュリティ対策が排除され、サイバー攻撃者やその他の悪質な行為者に非常に有利になる [ことを概説した白書](#)を発表した。

グーグルやアップルなどの企業は、自社のアプリストアをセキュリティ・プロトコルで厳重に強化しており、サードパーティのストアに比べて悪意のあるアプリの発生率を劇的に減らしている。

GoogleやAppleのアプリストアのようなキュレーション型オンラインマーケットプレイス（COM）は、明示的に許可されない限り、アプリが他のアプリのデータにアクセスすることを制限するサンドボックス化など、厳格な基準を導入している。

しかし、エコシステムをオープンにするというDMAの指令は、こうしたセーフガードを希薄にする可能性がある。

サードパーティのソースからのインストールを許可することで、アプリの権限管理がよ

り複雑になる可能性がある。その結果、アプリがアクセスできるデータをユーザーが監視することが難しくなり、データ漏洩のリスクが高まる可能性がある。

さらに、アプリの継続的な動作監視や、新たな脅威に対抗するための頻繁なアップデートといった既存のセキュリティ対策も、アプリをどのベンダーからも調達できるようになれば、その有効性が失われる可能性がある。

重要なのは、ユーザーが認識しているセキュリティと、彼らがお手頃に使用できる実際のセキュリティ慣行との間にかなりのギャップがあることだ。

多くのユーザーは、安全な選択をするために必要な認識や専門知識が不足しており、サードパーティ製アプリのインストールによるリスクが浮き彫りになっている。DMAのルールは、アプリのセキュリティのニュアンスに不慣れなユーザーを混乱させ、有害または侵入アプリの不用意なダウンロードにつながる可能性がある。

EUの規制の全体的なメリットについて個人の意見はともかく、競争の促進とサイバーセキュリティやコンテンツモデレーション基準の維持との間でトレードオフをもたらすことは否定できない。

でのヴェスタエー副委員長の発言は、こうしたトレードオフを管理する政策立案者の重要な役割を見落としている。

それどころか、複雑な規制を遵守するための全責任を業界に押し付け、こうした規制がもたらすより広範な公共的な政策の課題を見過ごしている。

EUによるこのアプローチは、規制当局が政策の結果を考慮する上で重大な見落としがあることを露呈した。

この見落としは、すでに潜在的に有害な影響を及ぼしている。

例えば、SpyFoneのような企業に対する連邦取引委員会（FTC）の苦情では、Androidによる無数の警告があるにもかかわらず、消費者が主なチャネル外でアプリをダウンロードするように惑わされるという事実が大きく言及している。

一方、DMAの要件は、コンテンツモデレーション機能の有無にかかわらず、あらゆる代替アプリストアへのアクセスを許可するものであり、ゲートキーパー企業が自社のオペレーティングシステムやアプリストアで警告の役割を果たすことさえ妨げる可能性がある。

モバイルアプリストアのセキュリティは、すべてのユーザーにとってメリットのある機能であり、規制の枠組みはセキュリティを強化し、ユーザーを保護する取り組みを支援すべきであることを示唆している。

AEIでのヴェスタエー副委員長の発言は、政策立案者がその意思決定プロセスにおいて、時として焦点を絞りすぎてしまい、結果として不均衡で危険な結果を招きかねないことを物語っている。